

「古墳時代における伽耶と日本の交流に関する基礎的研究」(共同研究)

「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」(国際シンポジウム)

Collaborative Research

"Interchanges between Kaya and Ancient Japan"

The REKIHAKU INTERNATIONAL SYMPOSIUM

"The Interaction between Wa and Gaya in Ancient Eastern Asia"

白石太一郎

I 共同研究「古墳時代における伽耶と日本の交流に関する基礎的研究」の概要と経過

1. 研究期間

1992年度(平成4年度)～1994年度(平成6年度)

2. 研究目的

本研究は、最近の韓国における伽耶地域の考古学的調査研究を踏まえて、韓国考古学と日本考古学、東アジア史と日本古代史、さらに考古学と古代史の共同研究によって、日本の古代の歴史や文化を大きく規定した3～6世紀における伽耶地域と日本との交流の実態を探るとともに、残された問題の所在を明確にすることを目的とするものである。

3. 研究組織

白石太一郎 国立歴史民俗博物館考古研究部

西嶋 定生 東京大学文学部(名誉教授)

大塚 初重 明治大学文学部

岩崎 卓也 筑波大学歴史人類学系/歴博客員教員

武田 幸男 東京大学文学部

吉田 孝 青山学院大学文学部

西谷 正 九州大学文学部

鈴木 靖民 國學院大學文学部

申 敬 澈 大韓民国 慶星大学校文科大学

東 潮 奈良県立橿原考古学研究所/歴博客員教員

武末 純一 福岡大学人文学部

早乙女雅博 東京国立博物館
千賀 久 奈良県立橿原考古学研究所
定森 秀夫 京都府京都文化博物館
春成 秀爾 国立歴史民俗博物館考古研究部
杉山 晋作 国立歴史民俗博物館考古研究部
設楽 博己 国立歴史民俗博物館考古研究部
永嶋 正春 国立歴史民俗博物館情報資料研究部
仁藤 敦史 国立歴史民俗博物館歴史研究部
藤尾慎一郎 国立歴史民俗博物館考古研究部
高橋 照彦 国立歴史民俗博物館考古研究部

研究協力者・ゲストスピーカー

小林 謙一 奈良国立文化財研究所
穴沢 味光 日本考古学協会
岡戸 哲紀 大阪府埋蔵文化財協会
田村 晃一 青山学院大学文学部
甲元 眞之 熊本大学文学部
酒井 清治 国立歴史民俗博物館資料課
金 斗 喆 大韓民国 国立晋州博物館
*所属は、1992～1994年度当時のもの。

4. 研究会の経過

第1回研究会 1992年6月19日 国立歴史民俗博物館

研究計画の検討

申 敬 澈 「金海大成洞古墳群の調査とその提起する問題」

第2回研究会 1992年8月5・6日 東京国立博物館・国立歴史民俗博物館

「伽耶文化展」展示資料の検討

東 潮 「古代東アジアにおける甲冑の系譜」

小林 謙一 「日本の甲冑と伽耶の甲冑」

第3回研究会 1992年10月7日 国立歴史民俗博物館

穴沢 味光 「古代東アジア世界における伽耶と日本の馬具」

千賀 久 「日本の初期馬具と伽耶の馬具」

第4回研究会 1992年12月16日 国立歴史民俗博物館

岡戸 哲紀 「大庭寺遺跡の調査とその成果」

定森 秀夫 「4・5世紀の陶質土器」

酒井 清治 「初期須恵器の生産開始と系譜について」

第5回研究会 1993年2月2日 国立歴史民俗博物館

鈴木 靖民 「文献史学からみた最近の伽耶考古学の成果」

申 敬 澈 「一年間の共同討議を振り返って」

第6回研究会 1993年6月25日 国立歴史民俗博物館

西嶋 定生 「楽浪・帯方二郡の前後—3・4世紀の朝鮮半島を中心として—」

第7回研究会 1993年11月27日 国立歴史民俗博物館

田村 晃一 「考古学からみた3世紀前後の中国東北部」

甲元 眞之 「伽耶と北方文化」

第8回研究会 1994年2月26日 国立歴史民俗博物館

武末 純一 「土器の様相からみた伽耶と九州」

第9回研究会 1994年11月28日 国立歴史民俗博物館

申 敬 澈 「伽耶の初期馬具をめぐって」

金 斗 喆 「韓国三国時代の馬具」

千賀 久 「伽耶の新出資料からみた日本の初期馬具」

第10回研究会 1995年3月9・10日 国立歴史民俗博物館

仁藤 敦史 「文献からみた古代の日朝関係—質・婚姻・進調—」

鈴木 靖民 「伽耶の鉄とヤマト政権」

吉田 孝 「地名の位相—『日本書紀』における「日本」と「任那」—」

西嶋 定生 「「倭国王」と「倭王」」

研究会の総括

5. 研究の成果

この共同研究は、まず金官伽耶の王墓を含む金海大成洞古墳群の調査成果をはじめとする伽耶考古学の最新の研究成果を学ぶことからはじめた。その上で伽耶と日本列島の双方に共通する考古資料である陶質土器、須恵器、馬具、甲冑などの遺物、さらに古墳をはじめとする墓制などの相互比較、影響関係などの検討を行った。あわせて両者の比較の前提となる共通の年代的物差しとしての土器編年の相互比較を行ったことはいうまでもない。こうした考古学的な検討の結果、4世紀後半から5世紀にかけての日本列島に見られる須恵器、馬具、甲冑などが直接的には伽耶からの強い影響によって成立し、ないし変容していることを明らかにした。また5世紀中葉以降、百済や新羅の

影響が強く及ぶ以前の日本列島においては、伽耶の影響がきわめて大きいことを確認できた。ただその一方で、古墳などの墓制には直接的な影響がほとんどみられないことも確認された。

さらに、日本列島の須恵器の成立などに関しては、一般に伽耶と呼ばれる慶尚南道の洛東江流域だけではなく、全羅南道の栄山江流域の陶質土器の影響も強く及んでいることが明らかになった。この地域が日本列島の前方後円墳と共通する墳丘墓の分布する地域であることも注目され、狭義の伽耶と並んでこの地域と日本列島との関係の追究が、新しく大きな課題として提起されることとなった。このような考古学的な検討を踏まえ、さらに文献史上提起される問題のいくつかについても検討を進めた。伽耶と百済・新羅・高句麗や楽浪・帯方郡との関係、さらに伽耶と北方文化との関係、また日本列島と伽耶を結ぶものとしての鉄資源の問題などについても議論を深めた。伽耶と日本列島との関係については、文献資料に限られるなかで、今後の研究の前進のためには、さらに考古学との協業が必要なが確認されるとともに、『日本書紀』の任那観などの既成の先入観にとらわれない、日韓の研究者の自由な討議が必要なが再確認された。

Ⅱ 国際シンポジウム 「古代東アジアにおける倭と伽耶の交流」

1. 開催期日

2002年3月13日～16日

2. 開催場所

国立歴史民俗博物館

3. 目的

日本列島に国家が形成され、文明化が進行する3～7世紀において、倭国が最もふかい関係をもったのは、朝鮮半島南部の伽耶を中心とする地域であった。弥生時代から古墳時代の前半期において日本列島で用いられた鉄資源の主たる供給地は伽耶であり、また5世紀以降急速に流入した騎馬文化、鉄器生産技術、製陶技術などは直接的にはいずれもこの地域からもたらされたものである。最近韓国では、伽耶地域の考古学的調査研究が著しく前進し、伽耶との交流や影響関係の具体相を編年的に比較検討することが可能となってきた。

このシンポジウムはこうした研究の現状をふまえて、日本、韓国、さらに伽耶の騎馬文化の源流でもある中国の研究者が一堂に会して、3～7世紀の東アジア世界の中での伽耶を中心とする朝鮮半島と倭国との交流関係を、騎馬文化、鉄資源、鉄器およびその生産技術、陶質土器とその生産技術、彼我の国際関係などについて具体的に追求しようとするものである。それはとりもなおさず、日本列島の文明化の実態を明らかにすることにほかならない。

日本列島が本格的に中国や朝鮮半島の先進的な技術や文化を受容し、その文明化を進めるようになるのは、古墳時代中葉の5世紀からである。騎馬文化、新式の武器などの進んだ鉄器生産技術、須恵器の生産技術などから、さらに学術や思想などが滔々と流入してくる。また多くの渡来人が来るのもこの時期以降である。こうして日本列島は3世紀足らずの短い期間に東アジアの文明世界の

仲間入りを果たし、日本列島独自の古代文化を生み出し古代国家を完成するのである。

こうした5世紀以降の日本列島の文明化の契機に関しては、かつて騎馬民族の征服などで説明されてきたが、なぜこの時期から倭国が急速に文明化を達成させるのかは、必ずしも明確にされていない。このシンポジウムは、こうした日本における古代文化形成の外的要因を、韓国、中国の考古学・歴史学の研究者とともに追求し、古代東アジア世界における日本古代文化の特質を明らかにしようとするものである。

4. 論点と成果

セッションを4つに分け、以下のような討論をおこった。

加耶の鉄と倭国では、5世紀末以前は列島内において、製鉄はおこなわれていないということを再確認の上、朝鮮半島南部からの鉄素材の入手を中心にした遠距離交易が、倭と加耶の間の交流の根幹であったことをあらためて確認した。

騎馬戦用の武器と馬具の受容では、日本列島各地で確認されている初期の馬具がいずれも加耶の影響を強く受けていることから、日本列島の馬匹文化・騎馬文化が加耶ないし百済の影響を受けて成立したものであることを確認した。また甲冑については、5世紀の倭の甲冑が加耶のものとは大きく異なること、倭の短甲が加耶の技術的影響を受けながらも弥生時代以来の木製短甲などを母体に倭で成立したものとのが考えが大勢を占めた。また、こうした馬匹文化や騎馬文化の受容については、高句麗の南下にとまなう倭の参戦を契機とするものという説が提起された。なお、加耶における騎馬文化の成立については、高句麗経由の影響とする中国の研究者の説と、中国東北部からの直接的伝播を考える韓国の一部研究者の説の違いが明らかになった。

考古資料からみた加耶と倭では、馬具、甲冑以外のさまざまな考古資料から、5世紀を中心に加耶と倭の交流の実態や人の移動の問題を検討した。加耶から倭への一方的なモノの移動だけではなく、倭から加耶へのモノの動きが指摘された。須恵器の成立については初期には加耶からの、第2段階以降には加耶の西方の全羅南道からの影響が大きいことが明らかにされた。なお須恵器の初現の暦年代に関しては、これを5世紀初頭に求める説と5世紀前半～中葉に求める説があり、相違点が明確化された。

加耶と倭の交流とその歴史的意義では、以上3つのセッションの討議を踏まえて、加耶を中心とする朝鮮半島南部と倭の交流の歴史的意義を検討した。論点は多岐にわたるが、①加耶の鉄資源の入手ルートの支配権をめぐる争いが倭の国家形成に決定的な重要な役割を果たしたこと、②5世紀以降における騎馬文化に象徴される先進文化の積極的受容が日本列島の文明化の契機になったこと、③それが高句麗の南下政策に対する朝鮮半島南部の諸国や倭の反応の結果にほかならないこと、④加耶と倭の交流を加耶地域内の諸勢力やさらに朝鮮半島諸相互交流の一環として理解する必要があること、⑤5世紀後半以降加耶に変わってその西方の全羅南道が倭と朝鮮半島との交流の直接の窓口となること、などが明確になった。

5. プログラム

3月13日(水)

- 8:00—8:40 受付
8:40—8:50 館長挨拶 宮地正人
8:50—9:00 主催者挨拶(シンポの趣旨, 目的) 白石太一郎
司会・進行 藤尾慎一郎

セッション1. 加耶の鉄と倭国

- 9:00—9:20 座長趣旨説明 鈴木靖民・東 潮
9:20—9:50 弥生時代の鉄 藤尾慎一郎(日本 国立歴史民俗博物館)
9:50—10:20 弁辰と加耶の鉄 東 潮(日本 徳島大学)
*****コーヒープレイク*****
10:40—11:10 韓鍛冶と渡来技術 花田勝広(日本 野洲町歴史民俗資料館)
11:10—11:40 韓国古代の鉄生産—新羅・百済・加耶— 孫明助(韓国 国立金海博物館)
11:40—12:10 日本古代の鉄生産 穴澤義功(日本 たたら研究会)
*****ランチ*****
13:00—13:30 金属学的分析からみた倭と加耶の鉄—日韓の製鉄・鍛冶技術—
大澤正己(日本 九州テクノリサーチ)
13:30—14:00 加耶の鉄と倭の南北市糶 宣石悦(韓国 釜山大学校)
14:00—14:30 文献からみた加耶と倭の鉄 鈴木靖民(日本 國學院大学)
*****コーヒープレイク*****
14:50—17:10 総括討議

3月14日(木)

セッション2. 騎馬戦用の武器と馬具の受容

- 9:00—9:20 座長趣旨説明 千賀久・杉山晋作
9:20—9:50 古墳時代の軍事組織について 田中晋作(日本 池田市立歴史民俗資料館)
9:50—10:20 古墳時代甲冑の系譜—朝鮮半島との関係— 橋本達也(日本 鹿児島大学)
*****コーヒープレイク*****
10:40—11:10 加耶の甲冑と年代 宋桂鉉(韓国 釜山廣域市立博物館)
11:10—11:40 朝鮮半島出土の倭系甲冑 小林謙一(日本 奈良文化財研究所)
11:40—12:10 東アジアにおける金属武器の変遷とその歴史的背景
王 巍(中国 中国社会科学院)
*****ランチ*****
13:00—13:30 6世紀以前の東アジアの鉄製甲冑 楊 泓(中国 中国社会科学院)
—中国古代の甲冑と朝鮮・日本の古代の甲冑—

13:30—14:00	馬具と地域間交流	金斗喆 (韓国 東國大學校)
14:00—14:30	加耶と倭の馬文化	千賀久 (日本 橿原考古学研究所附属博物館)
	*****コーヒープレイク*****	
14:50—17:10	総括討議	
18:00—20:00	レセプション	
3月15日 (金)		
セッション3. 考古資料からみた加耶と倭		
9:00—9:20	座長趣旨説明	武末純一・早乙女雅博
9:20—9:50	加耶と倭の交流—古墳時代前・中期の土器と集落—	武末純一 (日本 福岡大学)
9:50—10:20	須恵器生産のはじまり	酒井清治 (日本 駒澤大学)
	*****コーヒープレイク*****	
10:40—11:10	日本出土の高霊タイプ系・固城タイプ系陶質土器	定森秀夫 (日本京都文化博物館)
11:10—11:40	金銀の装身具	早乙女雅博 (日本 東京大学)
11:40—12:10	韓国の倭系遺物—4~6世紀—	高久健二 (日本 埼玉大学)
	*****ランチ*****	
13:00—13:30	鏡にみる交流	上野祥史 (日本 国立歴史民俗博物館)
13:30—14:00	4世紀代の加耶と倭	洪潜植 (韓国 釜山廣域市立博物館)
14:00—14:30	大伽耶と倭	朴天秀 (韓国 慶北大學校)
	*****コーヒープレイク*****	
14:50—17:10	総括討議	
3月16日 (土)		
セッション4. 加耶と倭の交流とその歴史的意義		
9:00—9:20	座長趣旨説明	申敬澈・白石太一郎
9:20—9:50	倭と加耶の交流の歴史的意味	白石太一郎 (日本 国立歴史民俗博物館)
9:50—10:20	考古資料からみた朝鮮諸国と倭	吉井秀夫 (日本 京都大学)
	*****コーヒープレイク*****	
10:40—11:10	東アジア世界における加耶と倭 —交易ルートとしての加耶の位置—	李成市 (日本 早稲田大学)
11:10—11:40	文献からみた古代日朝関係 —質・婚姻・進調—	仁藤敦史 (日本 国立歴史民俗博物館)
11:40—12:10	加耶成立の頃	申敬澈 (韓国 釜山大學校)
	*****ランチ*****	
13:00—13:30	加耶諸国の対外関係史の視点・論点	李永植 (韓国 仁濟大學校)
13:30—14:00	加耶論	金泰植 (韓国 弘益大學校)

14:00—14:30	広開土王碑文からみた加耶と倭	白承忠 (韓国 釜山大学校)
	*****コーヒーブレイク*****	
15:30—17:00	全体の総括会議 司会・進行	白石太一郎・鈴木靖民・申敬澈・全座長
	閉会の挨拶	平川 南 (国立歴史民俗博物館副館長)

6. 実行委員会

委員長：白石太一郎 (国立歴史民俗博物館)

委員：申敬澈 (大韓民国・釜山大学校)

鈴木靖民 (國學院大學)

李成市 (早稲田大学)

早乙女雅博 (東京大学)

東 潮 (徳島大学)

武末 純一 (福岡大学)

千賀 久 (奈良県立橿原考古学研究所)

高久 健二 (埼玉大学)

吉井 秀夫 (京都大学)

酒井 清治 (駒澤大学)

春成 秀爾 (国立歴史民俗博物館)

杉山 晋作 (国立歴史民俗博物館)

藤尾慎一郎 (国立歴史民俗博物館)

仁藤 敦史 (国立歴史民俗博物館)

上野 祥史 (国立歴史民俗博物館)

事務局：藤尾慎一郎 (国立歴史民俗博物館, 事務局長)

杉山 晋作 (国立歴史民俗博物館)

仁藤 敦史 (国立歴史民俗博物館)

上野 祥史 (国立歴史民俗博物館, 編集担当)

7. その他

発表は、日本語、韓国語、中国語でおこなわれ、日本語と韓国語については同時通訳のシステムを採用した。中国語での発表のみ、日本語への同時通訳を、吉原道夫氏 (立教大学大学院) にお願した。

なお、発表要旨については、日本語・韓国語併記した要旨集 (『古代東アジアにおける倭と加耶の交流』第5回歴博国際シンポジウム) を刊行した。